

令和8年度 授業改善推進プラン【全体】

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・筋道立てて考え、文章全体の構成や展開を考える。 ・構成や叙述に基づいて正確に読み取る。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 70.0% ・全国学力・学習状況調査の結果によると、全体の正答率は、都及び全国の平均を上回っている。領域別では、都および全国の傾向と同様に「書くこと」の正答率が他の領域と比較して低く、自分の考えを整理し、筋道立てて文章に表現することに課題が見られる。	・「書くこと」の学習では、事実と感想・意見を区別して書くことができるようにするとともに、構成メモや思考ツールを活用して、自分の考えを整理し、筋道立てて文章を書くことができるようにする。 ・文章の構成や叙述を整理して正確に読み取ることができるよう、根拠を明確にしながら自分の考えをまとめる学習を繰り返し行うことで、読み取った内容を適切に表現できるようにする。
社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・社会的な見方・考え方を働かせ、社会生活について理解し、情報を適切に調べまとめる技能を身に付け、思考・判断・表現する。 ・主体的な問題解決の態度、公民としての資質の基礎を養う。	・学習に対する意欲は高いが、教科書・資料集・インターネット等の資料から集めた情報を整理・分析し、表現することに課題がある。	・グラフや図表の読み取り方や、教科書や資料集からどのように情報を集め読み取るかについての指導を継続して行う。 ・調べたことをノートやスライドにまとめる（整理・分析）際には、社会的事象の意味や特色、つながりなどを考えさせ、自分の言葉で内容を短く要約し表現できるよう、指導の改善を図る。
算数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、処理することができる。 ・見通しをもち筋道を立てて考えたり、数量や図形の性質などを見いだし考察したりする力や数学的な表現を用いて、簡潔・明瞭・的確に表現する。 ・学習したことを問題を解決する場面や生活の場面に活用しようとする。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 73% ・全国学力・学習状況調査によると全体の正答率は、都及び全国の平均を上回っている。 ・領域別に見てみると、都及び全国の平均を上回っているものの「C 変化の関係」「D データの活用」については、平均と同様に正答率は他領域と比べるとポイントが低い。 ・データを読み取って、分かったことを言語化したり、説明したりすることに課題がある。 ・生活に即した場面での数学的思考の活用に課題が残る。	・数量や図形などがもつ意味や性質などについて、図などの活用や具体物の操作などの活動から理解を深めさせるようにし、確かな処理につながるようにしていく。 ・自ら考察したことを他者へ伝えるという「アウトプット」の活動を意図的に取り組むようにして継続していく。ノートやタブレット端末を使つての記述や、集団へ説明する場などを設け、考えを表現する質を高めていく。 ・生活での事柄が問題解決に役立つことや、既習した学習内容が解決につながることに気付けるような学習場面を取り入れていくようにする。

令和8年度 授業改善推進プラン【全体】

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・自然の事物・現象から問題を見出し、解決したい課題を明確にする。 ・生活経験や既習事項から根拠のある予想や仮説を発想したり、それらを基に観察や実験の方法を発想したりする。 ・実験、観察器具の使い方などの基本的な技能を身に付ける。	・自然の事物・現象に興味強い児童が多いが、自ら問題を見だし、課題として設定することに課題がある。 ・実験結果や既習事項を比較・関連付けながら、根拠を基に考察することに課題がある。 ・自然の事物・現象について、根拠を基に自分の考えを記述して説明することに課題がある。 ・観察実験の際、器具の扱いに不慣れな児童が多い。	・予想や仮説を立たせやすくするために、既習事項の振り返りを意図的に行ったり、生活経験を話し合ったりする活動を行う。 ・既習事項や実験結果を比較・関連付ける場や対話の機会を意図的に設定し、根拠を基に考察・説明する力を育成する。 ・観察・実験の技能が確実に身に付くよう、器具の扱い方を段階的かつ繰り返し指導し、基本的な技能の定着を図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	・身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、その特徴やよさに気づき、自分自身や自分との生活で考え表現しようとする資質・能力を養う。 ・友達や異学年の児童、地域の方々等様々な立場の人と進んで関わろうとする。	・身近な人々や社会、自然に自ら働きかけ、その特徴やよさに興味関心をもつ子は多いが、自分自身や自分との生活で考え表現しようとすることに課題が残る。 ・友達や異学年の児童、地域の方々等様々な立場の人と進んで関わるような経験があまり多くない。	・近隣公園を訪れ、様々な自然観察や季節の変化に気付かせる体験的な活動を通して、動植物への興味・関心を高める。昨今の気象状況を踏まえ、無理なく実施できるよう予定を組む。 ・年間2回の町探検を計画的に行う。そのためには、地域の方との事前の打ち合わせ、保護者との連携を密にする。まとめる際には、写真を効果的に活用し、「見たこと」「聞いたこと」だけでなく、そこから「考えたこと」「もっと知りたいこと」などもまとめるように指導する。

令和8年度 授業改善推進プラン【全体】

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・曲想と音楽の構造などの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。 ・音楽を愛好する心情と音楽に対する感性をはぐくむとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。	・様々な音楽活動に興味をもち、意欲的に学習に向かう児童が多い一方で、演奏や歌唱の能力には個人差もあり、個別の支援を要する児童もいる。 ・聴き取ったことや感じ取ったことを全体に表現したり伝え合ったりすることのできる児童が限られている。	・主体的に学びに向かう姿を大切に、スモールステップで学習を進める。また、個人や複数など練習方法を選択できるようにし、自分の課題にじっくり向き合ったり、教え合ったりすることで、自信をもたせるようにする。 ・音楽会を通して、演奏を聴き合い曲や演奏のよきなども見いだせるようにする。 ・ICT等の活用方法を工夫して、友達の考えにも触れ、様々な考えを知る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・材料や用具を使い、表し方等を工夫して、創造的につくったり、表したりする。 ・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方等について考え、創造的に発想や構想をする。 ・作品から見方や感じ方を広げたり、深めたりする。 ・つくり出す喜びを味わうとともに豊かな情操を培う。	・製作活動に意欲的に取り組む児童は多くはいるが、一部、に主体的に取り組めない児童や早く完成させてしまう児童、授業時間内に完成できない児童等、個人差がある。 ・表したいことをどうやって表すか表し方を知るために、様々な材料や用具を使わせて創作活動を経験させる必要がある。	・創意工夫する時間を確保する。また、工夫して表せるように、表現方法に応じた材料や用具の活用の仕方を提案する。 ・今までの経験を生かした題材を設定し、資料を活用し、学年に応じた声掛けや説明により、取り組みやすいようにする。 ・鑑賞の活動を通して、自分や友達の作品や身近な美術作品に興味や関心をもつように、鑑賞や展示の仕方を工夫する。

令和8年度 授業改善推進プラン【全体】

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自分たちの生活に活用する力	・基礎的な内容の定着を図り、家庭でも実践することができる児童も多くいる一方で、特に裁縫では技能の定着に個人差がみられることが課題である。 ・基礎的な技能が、時間の経過と共に曖昧になってしまうので、繰り返しの指導が必要となる。 ・意欲的に取り組む児童が多いが、授業内の学習だけで完結しているため、学習を家庭へとつなげられる児童が少ない。	・既習事項の確認を丁寧に行い、昨年度学習したこととのつながりに気付かせてから、学習を発展させる。 ・児童の意欲を大切に、学習したことを家庭で実践することを奨励し、周りに紹介することで、学習を家庭生活でも生かしていけるような学習サイクルを作る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・健康の保持増進と体力向上を目指し、主体的に取り組む力を養う。 ・友達と協働的に運動に取り組みながら課題解決に向かう力。	・体力調査では、全学年で全国平均を上回る種目が多いものの、456年生女子「20m シャトルラン」や1～5年生女子「ソフトボール投げ」、低学年「握力」が平均を下回っている。 ・体育への参加意欲は高いものの、チームでの活動の経験が乏しい。	・休み時間の外遊びや体育的行事を通して日常から運動に取り組むことができる環境を整える。 ・持久力や投擲力を高めるために、長縄・短縄月間を設定したり、投擲力を高めるような場を作ったりして、定期的に運動に取り組めるような取り組みを行う。 ・協働的な学習ができるようにグループでの活動を増やす。話し合い活動を充実させる。また、振り返りの場面で、「友達のよい動き」や「助け合い」の姿を具体的に価値付け、互いを認め合う風土を醸成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・英語でのコミュニケーションに活用できる基礎的な技能を身に付ける。 ・語彙や基本的な表現を活用し、相手意識をもって伝え合うことができる力を養う。	・英語での活動を楽しみ、意欲的に発話する児童が多い一方で、苦手意識をもって会話活動や発表活動ができない児童もいる。 ・基本的な語彙や表現の習得に時間がかかる児童がいる一方、知識があり、相手に伝わらない難しい表現を使いたがる児童がいて、能力差や相手意識に課題がある。	・45分間の中で、たくさんの発話を保証する授業の流れを確立する。 ・ゲーム的な楽しさではなく、言語活動で伝える楽しさ、新たな一面を知る楽しさを感じられる授業内容を工夫する。 ・単元や授業によっては、複線型を取り入れ、個に応じた指導内容を工夫する。

令和8年度 授業改善推進プラン【全体】

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・他者を尊重し、自分事として考え表現する力を養う。 ・自己を見つめ、多面的に考え実践につなげる力を育む。 ・自己の生き方を深く考え、主体的に判断・実践する力を高める。	・資料から登場人物の気持ちを読み取ることが得意な児童がいる一方、他者の立場を理解し、自分事として捉える力の育成が必要である。 ・資料や対話を通して考えを深める力の向上が求められる。 ・自己を見つめ、多面的・多角的に考察する力の伸長が課題である。	・自分に置き換えて考える活動や表現しやすい対話活動を取り入れ、自分事として考える態度を養う。 ・振り返りや話し合い活動を充実させ、多面的・多角的な見方で考えを深められるよう支援する。 ・対話や思考ツールを活用し、多様な考えに触れながら自己の生き方を見つめる学習を推進する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・多様な他者と関わる集団の中で、人間関係をよりよいものにしたり、自己の課題を発見し改善して、よりよい生き方を追求していこうとしたりする資質・能力を養う。	・当番活動や係活動を通して、意欲的に取り組み集団の関わりをよりよいものにしていこうとする児童が多い。その反面、振り返りや改善の機会が十分ではない。 ・話し合いを通して、多様な意見を受け入れて認め合い、よさを生かし合いながら考えたり、伝え合ったり、合意形成をすることが難しい。	・振り返りや改善する機会を意図的に設け、次に繋がる声掛けや活動の場を設定していく。また、当番活動や係活動以外にも、学校行事やキャリアパスポートなどで振り返りを行っていく。 ・話し合いでは、事前に意見を書かせてから、意見を基にした話し合いをすることや、話し合いの途中で必要な助言を行い価値付けていくことで、どうすれば他者の意見を受け入れながら効果的に合意形成を図ることができるのか、実践的に理解していくことができるようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・自分の生活や身近な地域の中から問いを見いだし、価値ある課題を自分で立て、手段を選択して情報を集め、各教科等で学習したことを活用しながら整理・分析して、相手や目的に応じてまとめ・表現する力を身に付ける。	・整理・分析の場面において、収集した情報をよく吟味したり、整理・分析の方法を選択したりすることができていない。 ・移動教室や夏季学園、100周年の記念式典や記念集会に向けた単元では、児童の思いや願い、興味・関心、課題意識などを生かすににくい。	・整理・分析の場面において、思考ツールを積極的に活用し、収集した情報をよく吟味したり、思考ツールなどを選択したりする学習活動を設定する。 ・次年度に向けて、児童の思いや願い、興味・関心、課題意識などを生かした学習活動を展開できるような単元を開発し、指導計画を改善する。